

《担当者名》専任教員／○岡橋 智恵 ／ 秋元 奈美 ／大山 静江 ／ 千葉 利代 ／ 山形 摩紗

【概 要】

2年次に修得した「歯科衛生学Ⅰ」を基本に、模擬患者を対象にグループで「歯科衛生過程」を実践展開する。さらに、歯科衛生過程の実践結果を整理し症例発表を実施する。

【学修目標】

個々の模擬患者の状況に配慮した歯科衛生過程を実施するために必要な知識・技能・態度を修得する。

- 模擬患者に対しての医療面接で情報を収集する。
- 模擬患者に対し各検査（歯列、咬合、歯肉、歯周組織検査、歯垢付着状態、唾液検査、歯周病検査）を実施できる。
- 模擬患者の口腔内写真撮影ができる。
- 情報収集した内容を処理（整理・分類、解釈・分析）分類することができる。
- 統合した情報から歯科衛生診断をする。
- 優先順位をつけることができる。
- 患者のニーズにあった歯科衛生計画（長期・短期）を立案する。
- 模擬患者に対し適切な歯科衛生介入を実施する。
- 長期目標・短期目標に基づき評価できる。
- 経過記録をSOAPで記入できる。
- 長期目標・短期目標に基づき修正プランを述べる。
- 模擬患者や班員とコミュニケーションをとることができる。
- 模擬患者の安全に配慮した行動ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	◎オリエンテーション	講義 ●模擬患者実習の概要について理解する。 ・実習目的 ・模擬患者の配当 ・実習概要 ●歯科衛生過程に沿った歯科保健指導の実践要領について理解する。	岡橋 智恵 秋元 奈美
3) 4	◎模擬患者実習1（情報収集）	実習 ●模擬患者との医療面接、対象者の観察より主観的情報を収集し記録できる。 ●歯・口腔に関する様々な因子を調べる諸検査より、客観的情報を収集し記録できる。 ●患者のニーズに基づき情報を整理することができる。 ●模擬患者とコミュニケーションを図ることができる。 ●模擬患者の安全に配慮した行動ができる。	岡橋 智恵 秋元 奈美
5) 6	◎カンファレンス ◎記録の整理（情報整理）	講義・演習 ●選択したグループからの症例発表について意見交換を実施する。 ●収集した情報（主観的情報・客観的情報）を歯科衛生士の専門的視点（ヒューマンニーズ概念モデルの応用）から整理分類できる。 ●模擬患者の情報から情報の意味を抽出できる。 ●模擬患者の情報から問題点・強味を考えることができる。 ●模擬患者の問題の原因と関連因子を考えることができる。 ●情報を分析するためのデータが不足していることに気が付くことができる。 ●統合した情報から歯科衛生診断ができる。 ●根拠に基づいて優先順位を決定できる。 ●対象者の問題解決にむけて長期目標および短期目標	岡橋 智恵 秋元 奈美

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		を設定できる。 ●歯科衛生介入の初回計画を立案できる。 ●経過記録をSOAPで記入できる。	
7 ～ 8	◎模擬患者実習2（介入①）	実習 ●前回の検査結果を模擬患者に説明することができる。 ●歯科衛生計画に沿った歯科衛生介入を実施できる。 ●情報不足のデータを聞き取ることができる。 ●模擬患者とコミュニケーションを図ることができる。 ●模擬患者の安全に配慮した行動ができる。 ●指導用の媒体を作成する。	岡橋 智恵 秋元 奈美
9	◎カンファレンス ◎記録の整理	講義・演習 ●選択したグループからの症例発表について意見交換を実施する。 ●歯科衛生診断の妥当性、計画の適否、保健行動の変化、歯科衛生介入の適否を振り返り、評価できる。 ●評価に基づき、歯科衛生過程の各ステップを見直し、修正プランを作成できる。 ●実施内容をSOAPで記入することができる。 ●指導用の媒体を作成する。	岡橋 智恵 秋元 奈美
10 ～ 11	◎模擬患者実習3（介入②）	実習 ●前回の検査結果を模擬患者に説明することができる。 ●歯科衛生計画に沿った歯科衛生介入を実施できる。 ●情報不足のデータを聞き取ることができる。 ●模擬患者とコミュニケーションを図ることができる。 ●模擬患者の安全に配慮した行動ができる。	岡橋 智恵 秋元 奈美
12	◎カンファレンス ◎記録の整理	講義・演習 ●選択したグループからの症例発表について意見交換を実施する。 ●歯科衛生診断の妥当性、計画の適否、保健行動の変化、歯科衛生介入の適否を振り返り、評価できる。 ●評価に基づき、歯科衛生過程の各ステップを見直し、修正プランを作成できる。 ●実施内容をSOAPで記入することができる。 ●指導用の媒体を作成する。	岡橋 智恵 秋元 奈美
13	◎症例発表オリエンテーション	症例発表オリエンテーション ●発表日時、方法について理解する。 ●発表のためのパワーポイントを作成する。 ●発表原稿を作成できる。	岡橋 智恵 秋元 奈美
14 ～ 15	◎症例発表	講義・演習 ●他グループとの比較による自己の歯科衛生過程の評価ができる。 ●他グループの結果から歯科衛生過程に対する見方や解釈の多様性を理解する。	岡橋 智恵 秋元 奈美 大山 静江 千葉 利代 山形 摩紗

【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

- ・提出物（50%）
 - ・グループ発表（35%）
 - ・学習態度（15%）
- 以上を総合して判定する。

【教科書】

- ・「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」医歯薬出版株式会社

【備考】

新型コロナ感染拡大状況により変更になる場合があります。

【学修の準備】

模擬患者実習については第2学年で修得した歯科衛生学Ⅰの内容を確認し理解しておく。

[授業時間外学習]

予習：30分…模擬患者の情報を確認し、指導計画を確認しておく。

復習：30分…歯科衛生評価、実施記録、修正プラン作成、情報処理内容の整理をしておく。

【実務経験】

岡橋智恵（歯科衛生士）
大山静江（歯科衛生士）
千葉利代（歯科衛生士）
秋元奈美（歯科衛生士）
山形摩紗（歯科衛生士）

【実務経験を活かした教育内容】

歯科衛生士としての実務経験を活かし、臨床の場で歯科衛生過程を展開するための論理的思考ツールを活用した歯科衛生介入の講義・演習を行う。